

National Center for Geriatrics and Gerontology
Research Institute

高齢者糖尿病からみた フレイル・サルコペニア対策の実践

代謝・内分泌研究部

大村 卓也 副部長

2025年7月17日（木）16時30分～
第1研究棟2階大会議室

糖尿病治療はこの約100年で劇的に進歩し、まず死亡、ついで合併症のリスクが減少した。寿命の延長にともない、フレイル・サルコペニアをはじめとする老年症候群の発症・重症化をいかに予防するかが新しい課題になる。

しかし、これを支える科学的根拠は十分に確立されているとはいえない。高齢者糖尿病の治療には「厳格な根拠に基づいた治療」というよりも「その時点で最善と考えられる治療」を実践するという側面がある。さらに、その選択の是非が明らかになるのは、10年後あるいは20年後なのかもしれない。

私たちが進めている研究の紹介に先立ち、こうした課題解決に向けて、実臨床で意識している点を述べる^[1,2]。

[1] Omura, Kamihara, et al. **JAMDA**, in press.

[2] Omura, Kamihara, et al. **Aging Med. Healthc.**, in press.